

所在地 〒666-0107 川西市下財町4番1号

写真 澤 良雄  
文 東かすえ

洋館 正面

前号に引き続き、川西市郷土館を紹介する。前号で紹介した旧平安邸を奥に進むと、趣を異にする瀟灑な洋館「旧平賀邸」がある。大正7(1918)年に建てられた平賀義美博士の自邸である。

設計は大林組の建築部長であった松本兎象、施工は鴻池組が行った。松本兎象は東京高等工業学校を卒業し、代表作に曾根崎新地歌舞練場などがある。

洗い出しの外壁、基礎は御影石積みである。出窓や煙突などが特徴的な、イギリス田園住宅風の建物である。平賀博士が若い頃留学したイギリスの住宅に憧れ、その様式を踏襲したのであろうか。しかし、建物は小ぶりな、簡素な印象を受ける。

室内に入ると、床は板張り、壁は腰板の上部がクロス貼り、天井は漆喰塗りである。華やかな装飾はないが窓の上部に設

#### ◆移築

この建物はかつて、川西市小戸、猪名川のほとりに位置し、その広大な敷地の中には猪名川からの農業用疎水が流れ、楠の大木が繁っていた。そこに洋館と和館、実験研究棟、蔵、東屋などが並んでいた。しかし猪名川改修の支障となり、平成2(1990)年に洋館と実験研究棟、東屋などがこの地へ移築された。和館・蔵などは既に取り壊されている。

平賀博士は、1857(安政4)年福岡に生まれた。幼い頃から秀才と認められ、藩費で長崎に留学して英語を学び、東京帝国大学を卒業する。その後、イギリスで染色技術を学び、帰国後は最新の織物・染色技術の指導を行う。また、織物業界だけでなく、関西の幅広い企業のプレーン役を果たし、海外事情に通じた貴重な存在としてその発展に寄与した。日本最初の工学博士であり、化学者であった。

何度も洋行して洋風の生活に慣れた平賀夫婦は、もっぱら洋館に暮らし、和館には、姉、子供などが暮らしていたようだ。

#### ◆イギリス田園住宅風

洋館は平屋建(実験研究棟は2階建)で、延べ床面積は約200㎡(実験研究棟含む)。天然スレート葺の屋根に玉砂利



玄関ホール

けられているステンドグラスが洒落ている。

書斎には暖炉があり、その上部の寄木細工が見事である。また作り付けの本棚にも同様の寄木細工とステンドグラスが施されており凝っている。客間にも暖炉がある。天井にはごく簡素で上品な漆喰のモールディングが施されており、可憐である。

客間横にはガラスに覆われたサンルームがあり、これもイギリス風である。

主な窓は二重であり、窓台部分が手前に取り外せ、腰壁の中に網戸が収納されている。ベッドや暖炉などイギリス風の生活様式を取り入れてはいるが、模倣するだけでなく、日本の気候に合わせた配慮も怠っていないことに感嘆した。また各部屋はスチーム暖房が取り入れられていた。意匠のみでなく機能も優れており、80年以上経った現在でも新鮮で、学ぶ点が多い。

旧平安邸・旧平賀邸共に国登録文化財である。

〈参考文献〉川西市教育委員会資料

「こんにちは」(住まいと生活の情報誌) 1994.8

9月号「兵庫探訪」記事の訂正とお詫び

築地塀の用語説明中「堀」は全て「塀」の誤りです。

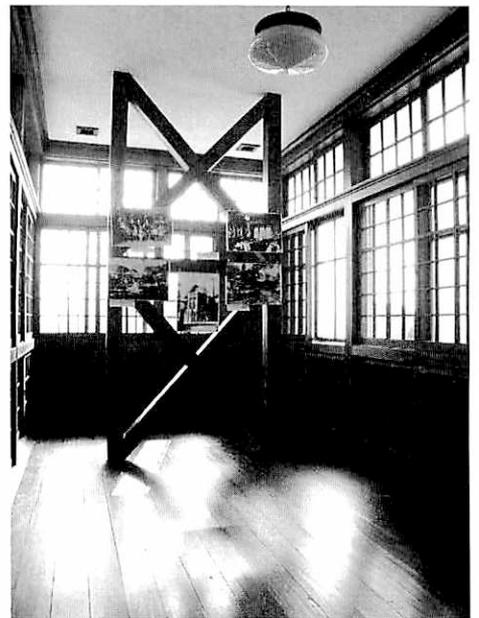
訂正してお詫び申し上げます。



書斎の暖炉



平面図



化学実験室(移築時に耐震ブレースが設けられた)



東屋



サンルーム